

編 集 後 記

前回のヒマラヤ特集号 (2001) から 13 年が経ちました。この間、IPCC のレポートが三回更新され、ヒマラヤの雪氷圏への関心が高まる中、第四次報告書の氷河スキャンダルが発覚し、ここ数年で研究が大きく進展しました。IPCC 第五次報告書が出た今、再度特集号を出版するにはよい時期だと自負しています。

こういった特集号の意義について、前回の号を仕切った中尾正義さんは、「分野外の研究者によく知ってもらうため」とおっしゃっていました。ですが、今回の特集号の編集を通じ、日本語のレビュー論文から一番利益を享受するのは、実は、その分野の状況を誰よりも把握できる執筆者自身だろう、と思った次第です。把握

している人でないとレビュー論文はかけませんが、平易な日本語の文章を練る過程で、より理解が深まり、今後の方向性を思索するための良い機会になると感じました。

本特集号は、北海道大学低温科学研究所の共同研究集会「ヒマラヤにおける氷河・氷河湖に関する研究」における議論を通じて盛り上がった機運を元に企画されました。この場を借りて御礼申し上げます。また、西村浩一さん (名古屋大学)、青木輝夫さん (気象研究所)、白岩孝行さん (北海道大学) には編集を担当していただきました。ありがとうございました。

(藤田耕史)